

データシート

VIAVI CT-X

完全にアジャイルなデジタル漏れチャンネルタグ付け機能

概要

VIAVI CT-Xチャンネルタグ付け機能を使用して、漏れ検出速度と正確さを大きく向上させながら、デジタルプラント拡張を収容するためのフルチャンネルラインナップの柔軟性を提供します。

次世代デジタルタグ付け

VIAVI Seeker X 漏れ検出器と共にシステムとして使用することで、CT-X は誤検出を無視しながら、漏れ検出感度を大幅に増加できます。

同時に最大4つまでのキャリアをタグ付けし、チャンネルラインナップのどこにでもフィットできるため、CT-X は前例のない漏れ検出範囲を提供します。

CT-X はタグ付けされた革新的な新しいタグ信号を生成し、Seeker X 検出器によりこの信号を検出することで、他のシステムでは見逃される漏れを検出できます。漏れ感度の向上と確実な漏れ検出により、排斥テストにおいて工場をより綿密かつ正確にカバーし、フィールドでエンジニアがより効率的に検出・修理を行えるようになります。

CT-X は Seeker D 対応のタグも生成し、Seeker X、Seeker D、及びSeeker D Lite 検出器と連携できます。これにより、通信事業者は、単一の CT-X 送信機を使って新しい Seeker X および既存の検出器を使用できます。

いくつかの CATV システムが同一エリアで運用されている場合、どのシステムから漏れが検出されたかの判定が困難なことがよくあります。CT-X は混み合った状況での漏れの問題に対処するように設計されています。

主な特徴

- 漏れをより多くより速く検出し、斬新なタグを用いて誤検出を排除する
- フルバンド周波数アジリティにより130～1220MHz の範囲での完全なチャンネルラインナップ柔軟性が得られる
- 1RU シャーシ内で 4 つまでのタグを使用してフルスペクトラムをカバー
- 非干渉タグテクノロジーであるためサービスに影響しない
- 内蔵ウェブインターフェイスにより、リモートセットアップと簡素化された管理が可能



取り付けしやすい

フロントパネルで押しボタンを使用するか、ウェブインターフェイスを使用するかに関わらず、CT-Xは非常にシンプルで設置しやすく、RF信号がヘッドエンドに収容できます。CT-X はコンバイナー近くのラック場所に簡単に取り付けでき、1RU のラックスペースしか必要としません。

以下を含みます:	パーツ番号
CT-X と120～240VAC電源およびAC電源ケーブル	TRI-LKG-CTX

一般仕様

出力インピーダンス	75Ω (公称値)
コントロール	フロントパネルの選択ボタンとEnterボタンおよび HTML ウェブインターフェイス
ディスプレイ	2 行 LCD、各行 16 文字
通信	10/100/1000 Base-T イーサネット、SFP/SFP+ インターフェイス
電源	90～250VAC、47～60Hz、0.75A
サイズ	1RU (1.75 インチ) ラックエンクロージャ
動作温度	32～104° F (0～40° C)
保存温度	-4～140° F (-20～60° C)

CT-X 動作モード	
互換機器	Seeker X、Seeker D、Seeker D Lite 漏れ検出器
キャリアタイプ	チャープおよびデュアル CW デジタル漏れキャリア
タグシグネチャー	チャープキャリア:4 つの一意シグネチャー デュアル CW キャリア:8 つの一意シグネチャー
キャリア周波数	130～1220MHz
キャリア出力レベル	-10.00～35.00dBmV、±0.5dB
スプリアス出力	代表値 デジタルキャリア - 65dBc ¹
出力リターンロス	> 12dB、50～1220MHz にて

¹デジタルキャリアパワー -30dBの代表値を仮定。